

ふくおかAL通信

～県立学校の教室から～

第39号
(R3.2.9)

福岡県立学校
新たな学び
プロジェクト

地区版実践発表会特集号

本年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインで地区版実践発表会を行いました。各校とも、この一年間でスキルアップしたICT活用能力を遺憾なく発揮し、オンラインならではの工夫を凝らした充実した発表会となりました。

A地区 門司学園高等学校 12月10日(木)

研究テーマ「ICT機器を利用したAL型授業による授業改善と観点別評価の一体化に向けた研究」

地区内17校から24名の先生方が参加されました。事前の接続テストでは、Zoomへの入室で課題が見られましたが、発表会当日はスムーズに入室が行われました。

実践発表は、会場校の通信環境に不安があるとの判断で、事前に動画を制作してそれを視聴するオンデマンド型で行われました。実践発表は、学校全体での取組の概要だけでなく、研究授業をされた各教科(国語、数学、英語、理科、地理歴史)の先生方がそれぞれの授業におけるICT機器を活用した手立てを、画像を入れながら説明しました。また、オンライン文化祭について生徒会長が説明するなど、学校でのICT活用の取組が具体的に紹介されました。説明スライドによる協議は、ブレイクアウトセッションではなく、四つの分散会を単独のZoomミーティングで開催しました。これにより、全体の途絶を防ぐことができるとともに、運営側が多くの参加者を管理する必要がなく、不慮の事態等にも柔軟に対応できるようになりました。また、一つの分散会に3～4名の先生方が運営に携わることで、オンライン研修の運営に関する経験を多くの先生方で共有することにもつながりました。協議も各校の特色ある取組が紹介され、それらの取組に対する質問が多く出され、有意義な時間になりました。

全体会で協議の内容が共有された後、福岡教育大学の小泉教授から「ICT活用の今後の方向性として『取組の効果を明確にする』『学習の個別最適化の視点をもつ』『取組の協働性を意識する』ことが必要だ」と助言をいただきました。門司学園高等学校の「一人一人の持ち味を生かしつつ、全体で取り組む」という姿勢が随所に表れた発表会でした。



グループ協議の様子

B地区 中間高等学校 12月4日(金)

研究テーマ「振り返りを通して自立した学習者を育てる～ICTを活用した授業改善～」

地区内23校から39名が参加した中間高等学校の地区版実践発表会は、初のオンラインによる5地区の発表会のトップバッターとして、緊張感漂う中スタートを切りました。

実践発表では、生徒が主体的に学ぶための授業を展開するために、組織としてどのような取組を行ったのか、その具体について説明がなされました。全職員が相互授業参観週間時に「授業参観用ルーブリック」や「授業者用シート」を活用し相互評価の充実を図ったことや、プロジェクトチーム会議に関する内容など、今年度の取組についての報告がありました。また、協議Iでは、YouTubeを活用した事前視聴の実践授業を基に協議を行いました。次々に入るチャットによる質問に授業者が答えることで、参加者が今後どのように取り組めばよいか、ヒントを得ることができたと思います。

また、ポスター発表では、各校のICTの活用状況や効果的な活用する方法について情報交換を行うことができました。アンケートには、「教師・生徒共に授業を振り返ることが、次の学びに繋がることを改めて実感した」「今後、振り返り活動を充実させたい」「実践授業で紹介された具体的手立てを参考にして、自己の授業に取り入れていきたい」といった声がありました。

初めてのオンラインによる発表で、途中PCトラブル等もありましたが、綿密なスケジュールや役割分担等により終始スムーズな対応が行われ、予定どおりに会は進んでいきました。それぞれの先生方がそれぞれの役割を果たすとともに、協働して会を運営している姿が大変印象的でした。中間高等学校の授業改善は、今後も研究テーマの達成に向けて着実に成果を上げていくと確信できる発表会でした。



会場(本部)の様子

C地区 須恵高等学校 12月11日(金)

研究テーマ「どこでも学校ドアプロジェクト～ICT端末による対話的学びへの主体的参加を目指して～」

地区内28校から22名の先生方が参加されました。まず、須恵高等学校で実施した研究授業の報告と

同校の ICT 活用の実践報告が行われました。国語総合では、Google フォームを使用して小テストを実施したり、Google Classroomを使用してレポート提出や意見交流をさせたりしていました。生物では、Explain EDUを使用した授業動画を視聴した後、Teams を使用して意見交換し、疑問点を教師に質問し、最後に生徒の質問やつまづきやすいところを教師が黒板で解説した授業が行われていました。この他にも、Forms、Kahoot!、Classi等のソフトを活用した実践報告が行われました。

引き続き行われた各校の説明スライドについての協議は、事前に準備しておいた協議の柱に基づき、自校の取組をよりよくするための意見を求めたり、他校の取組について質問したり、効果的な ICT の活用方法について協議したりと、30分の協議時間を有効に使い協議を深めることができました。

新たな学びプロジェクト開始時期からのアドバイザーである福岡教育大学の生田教授にコーディネーターをお願いして生徒とのパネルディスカッションも実施しました。パネルディスカッションでは、ICTを活用した授業のよさ（アダプティブ・ラーニング、資料の提示、動画視聴）、ICTを活用した授業の問題点（通信環境が悪いと授業にならない）、ICTによる課題提示の問題点（通知が来なかったり、通知を忘れたりすると課題提出ができない）、ICTの活用による学びの変化等、生徒がどのように ICT と向き合っているかを知るよい機会となりました。



パネルディスカッションの様子

D地区 太宰府高等学校 12月18日（金）

研究テーマ「基礎学力の定着を促す授業の工夫～ICTを活用した能動的な学習を通して～」

地区内14校から22名の先生方が参加されました。まず、発表会当日の直前に接続テストを兼ね、現代文、地理、数学、化学、英語の研究授業の様子を各授業者お好みのBGM付きのスライドショー（一部動画）で紹介しました。スライドショーにしたことで通信データ量が軽減され、音楽の力により参加者は理論的だけでなく情意的にも同校の実践に引き込まれていきました。

実践報告では、研究テーマである「ICTを活用した能動的な学習」を目指すべく、具体的方策として「授業展開の中に意見交換や発表といった『考えを深める場面』の設定」「AL推進とICT活用により、従来型の『聞く』授業から、『聞いて、見て、話して、考える』授業への転換」等の実践が紹介されました。実践効果の検証としては、アドバイザーの福岡教育大学松尾准教授の御指導のもと、生徒・教員へのアンケート結果による分析が行われ、ICT活用や発問の工夫等の授業改善の成果が示されました。

太宰府高等学校では発表会の様子を、全職員が会議室のモニターから見守っていました。発表・運営をした職員のチームワークは勿論、全職員が一丸となって授業改善を進めていることが伝わり熱量溢れる発表会でした。



会議室の様子

E地区 朝倉高等学校 12月16日（水）

研究テーマ「ICTを活用した授業の浸透と対話・討論による深い学びの創造」

地区内18校から28名の参加がありました。朝倉高等学校は電子黒板・実物投影機が全教室に整備され、無線接続のタブレットPCを60台以上保有しています。実践発表会の本部となった会議室は、壁面に投影できる5台の電子黒板と自由にレイアウトできる机・椅子が整備され、平常はAL教室として活用されています。

開会行事の後、実践発表が行われました。これまでの2年間でICT活用を前提とした授業実践、AL導入が進み3年目の今年は、導入から「浸透（普及）」の段階へ進めることと、昨年に引き続き「ICTを活用した対話・討論を含んだ授業を実践した際の評価方法の開発」を課題に置きました。その一つ「浸透」に向け、ICT技術の到達目標を設定した「CanDoリスト」作成により、ICT技術の構造化と視覚化、共有が行われました。達成状況の分析から、更なるステップアップには特定のICT活用スキル向上が重要であることが示されました。もう一つの課題「評価方法の開発」は教科会議と職員研修を重ねて当該分野の理解を深めるとともに、コロナ禍で生徒活動が制限される中で取り組まれた評価項目、生徒の活動、評価方法が教科別一覧表の形で報告されました。

実践発表に続く五つのグループでの協議は「未来へつなげるICT活用方法」のテーマの下、ICT機器の使いづらさとその解決について話し合われました。各校の状況が共有され、ICT機器の整備状況、運用・管理の難しさとその解決、ICT活用スキルの不足とその克服、組織的な取組の実現等の話題が取り上げられました。グループでの協議内容は全体協議でも共有され、これらの課題は、各参加校のすでに克服した課題、現在直面している課題、これから直面する課題と対応しており、各校の現状が再確認され、今後の取組に生かされるものでした。



AL教室の様子